

平成の大修理
完成記念

国宝

二王門

京都・綾部・光明寺



文化財
国 宝
光 明 寺
二王門
鎌倉時代(13世紀)
火災
HITACHI

今、堂々とよみがえる二王門 ～平成の大修理を終えた国宝光明寺二王門～

君尾山の深い緑の中に悠然とたたずむ国宝「光明寺二王門」。その圧倒的な姿は、見る者を別世界に
いざないます。昭和の大修理から60年あまり。平成に行われた保存修理工事は、先人が築きあげた
かけがえのない宝を建立当時の美しい姿で次世代へ引き継ぐため、屋根の葺き替えや、塗装の塗り
直しを中心に3年をかけて行われました。

悠久の歴史を伝える木造建築。「木」という素材ゆえに、
放っておくとやがては朽ち果ててしまいます。二王門が
800年近くもそびえ続けてきたのは、先人たちによって
傷んだところを直しながら大切に守り伝えられてきたおかげ
と言えます。一方で修理に伴い、その時代に見合った改造も
加えられてきました。
文化財に指定されて以降は、建物が持つ価値を守り、
それを未来へ伝えるという大きな役割も担っています。



今回修理前の二王門 下層の状況

昭和の解体修理

建物を一旦全て解体して、しっかりと組み直しました。健全な材料を再使用するなど、文化財として
価値を意識した修理をしています。
並行して丹念に調査を行い、用途を変えて残っていた当初の材料などをもとに、創建当初と考えられる
姿に復原整備されました。根拠となった部材は、建物内に保管されています。



昭和修理前の姿(昭和修理の写真より)
軒先が下がらぬよう、支柱を立てています。上層の高欄(こうらん:手摺り)部分の形が今と違うことがわかります。また、
二王像の廻りは格子で囲われていました。これらは過去の改造によるもので、昭和修理で改められました。



鎌倉時代から時を超えて
今へ、そして未来へ

これまでの修理歴

鎌倉時代：宝治2年(1248) 建立
室町時代：永正13年(1516)
江戸時代：享保16年(1731)
江戸時代：安政7年(1860)
昭和25～27年(1950～52) 解体修理

今回の修理概要

修理内容：屋根葺き替え、塗装塗り替え
修理期間：平成28年6月～平成30年12月
総事業費：1億4800万円
事業形態：京都府教育委員会に委託

昭和修理から65年を経て、屋根板が傷んだことによる
屋根の葺き替えです。合わせて、塗装の塗り
替えを行いました。



柱に記された宝治2年の墨書
(昭和修理の写真より)

文化財の指定

明治37年
文化財指定
(特別保護建造物)
昭和29年
国宝指定

二王門はどんな建物？



1 とち葺きの二重屋根

とち葺きとは、厚板を重ねて葺く屋根をいいます。二王門では、他に例を見ないような厚さ2.4cmのクリ材を使っています。
屋根が「二重」に架けられる門は珍しく、これよりも古い遺構は奈良にある法隆寺中門(飛鳥時代)のみです。江戸時代以降は、
仏教宗派の本山などに見られます。



2 姿は建物の格を示す

上層内部



部屋はありません。建物が2層になっているのは実用的な
目的ではなく、外観を整えて建物の格式の高さを示すための
ものであることがわかります。

三手先組物…みてさきくみもの



軒を支えている複雑な組物は、屋根を大きく持ち出して建物を
雨風から守るのに有効ですが、高度な技術が必要です。これも
格の高い建物であることの証しです。



3 木材と加工

当初に建物に使われた木材はスギです。
これを、木の繊維に沿って割り裂いて製材しています。繊維を断ち切らないので、強く、変形も少なく、建物が長持ちします。
このように割ることができるのは、良材の証しともいえます。

加工の痕跡

外から見えない部分では、割って製材した木材を粗く加工
した様子がよくわかります。

上層内部

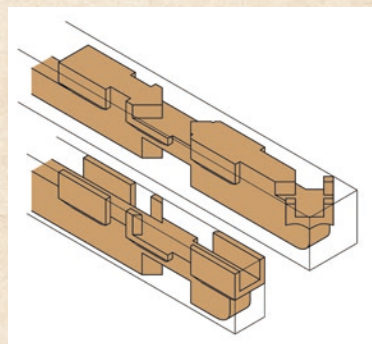


上層軒内部



造り出しの部材

大きな重量を受ける部分は、一体の丈夫な部材となるよう、
手間を掛けて大きな材から削り出してつくっています。



右手前へ突き出る材
(肘木:ひじき)の年輪を
見ると、一体につくら
れていることがわかり
ます。

保存修理工事の様子

仮設工事(素屋根)

よい仕事はよい足場から



素屋根は、修理中の建物を風雨から守り、作業の足場となるもので、丸太を鉄線で縛ってつくられました。車が近寄れないので、モノレールを組んで資材を運搬しました。

屋根工事(とち葺き)

屋根板を全面葺き替えました



屋根板の原木(クリ丸太)
太いもので直径50cmあります。



屋根板加工の様子

屋根板の下に銅板を挟みながら葺いています。銅の持つ殺菌作用により、苔が生えにくい効果があるなど、屋根板が長持ちします。昭和の修理でも行っていました。



屋根板の傷んだ状況



屋根板の取り外し完了



屋根板には、クリ材が使われています。クリは水に強く、かつては家屋の土台や、線路の枕木などに使われてきた木材です。使った板は、厚さ2.4cm、長さ75cm。これを24cmずつずらしながら、1枚1枚釘止めて屋根を覆っていきます。

上層屋根 南東より

木材の年代調査

保存修理工事は、建物から情報を得るのに絶好の機会でもあります。残念ながら昭和修理の調査記録は残っていませんが、科学的な調査手法の進んだ現代だからこそ明らかにできることもあります。今回、2種の調査方法で、使われている木材の年代を調べました。

- ①1245年に伐採された材木が使われていることがわかり、宝治2年の建立年代が裏付けられました。(年輪年代調査より)
- ②柱を挿し抜く貫(ぬき)から永正修理の時期の年代が得られ、この時の修理で大きな構造強化が加えられたことがわかりました。(放射性炭素年代調査より)

塗装工事

塗装を全て塗り直しました



昭和修理で使われなかった材に、建立当初と考えられる赤色の塗料が見つかりました。今回の修理では、これを分析調査し、施工にも反映しています。

左写真の部材の詳細



古い赤色塗料。建物が組まれると隠れるところに付着している。



旧塗装を落とした状態。色がよく残るのが昭和修理の補足材。



塗料は、鉱物性の色粉を、膠(にかわ：動物の骨や皮からとったゼラチン質)で溶いてつくります。赤は酸化鉄系の顔料です。白は胡粉といい、貝殻を粉末にしたものです。



塗装完了(上層)

長い参道を登り、ふと見上げると緑の木々のなかに赤い門が見えてきます。自然と調和した重厚なたたずまいを感じさせます。

二重門

上下二層に屋根をもつ門。門のなかで最も格式が高いとされます。ただし、光明寺の二王門の上層に部屋はありません。重厚感のある二重門も鎌倉時代を境に廃れてしまい、軽快な楼門へと変わってゆきます。その中で度重なる天災や人災を潜り抜け、残されてきた貴重な建物です。

二王門にまつわる話

二王門に掲げられていた当初の扁額^{へんがく}は三蹟^{さんせき}のひとり小野道風^{おののちやうふう}の揮毫^{きごう}と伝わります。江戸時代の初め、この扁額が盗まれ、京二条に売りに出ていたところを買い戻したことが古文書に書かれています。今の扁額はその後に作り直したものです。また、あるとき近くに天狗が住みつき里で悪さをはたらくので、住職がいさめると詫びてどこかへ去っていったという民話「天狗の詫び証文」が伝わります。

木鼻

柱の上部には柱を水平につなぐ頭貫^{かしらぬき}があります。この頭貫の柱から飛び出した部分を「木鼻」といいます。木鼻の出現は中国宋から持ち込まれた新しい技術で東大寺を再建した鎌倉時代以後のこと。当時の最新の様式がこの地にもたらされていたことがわかります。



二王信仰

二王像を後ろにさげて配置し、前を板の間としています。背面に連子窓^{れんじまど}があることで、門でありながらお堂のようなつくりになっています。二王像そのものを礼拝する二王信仰が盛んだったことを示すこの地域独特の形式です。



光明寺金剛力士像 (重要文化財)

一般に二王像として親しまれている金剛力士像は、お寺の中に仏敵が入り込むのを防ぐ役割を担っています。



吽形像

「密迹金剛力士」
(写真提供：文化庁)



阿形像

「那羅延堅固王」
(写真提供：文化庁)

光明寺二王門に置かれている金剛力士像の作者はわかりませんが、作風が兵庫県丹波市山南町にある石龕寺の金剛力士像と似ています。石龕寺の金剛力士像は慶派の流れを汲む肥後定慶の作で、鎌倉時代に作られたことがわかっており、重要文化財に指定されています。光明寺二王門の金剛力士像も同じ状況のもとで作られたものと思われ、鎌倉時代に二王門の建立とともに置かれたと考えられます。こうした観点から重要文化財指定の答申がなされました。(平成31年3月)
国宝の門のなかに国指定の金剛力士像が置かれているのは、光明寺二王門のほかに、法隆寺中門(奈良県)・東大寺南大門(奈良県)・金峯山寺仁王門(奈良県)だけです。



光明寺の文化財

光明寺には長い歴史を通して多くの様々な貴重な史料が伝えられてきました。

本堂(京都府指定) ①

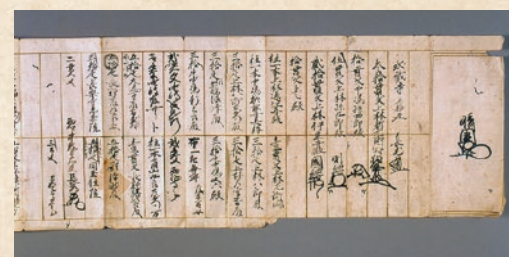
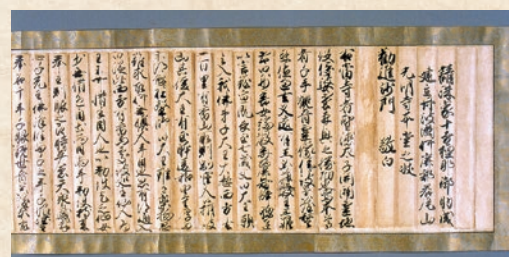
丹波丹後の真言宗本堂のなかでは屈指の規模を誇ります。
向拝の彫刻は、当時北近畿一円で活躍した彫り物師、中井権次一党によるものです。



鰐口(京都府指定) ②
光明寺に納められ本堂の正面に掛けられていたものです。



制札(京都府登録) ③・④
寺での禁止行為を掲示した板



光明寺本堂再興勸進状・
光明寺奉加帳(京都府指定) ⑤
光明寺復興の寄付趣意書と
寄付者名簿



宝篋印塔(綾部市指定)

南北朝時代の優作



二王門棟札(綾部市指定) ⑥

二王門天井板に転用されていた



二王門に納められた巡礼札



町石(綾部市指定)

慰霊碑に十六丁と刻む
1382年(永徳2年)

君尾山光明寺

寺伝では聖徳太子の創建とされる光明寺。
二王門の建立後には、兵火に見舞われるなど、波乱の歴史の舞台となりました。

599年
(推古天皇7年)

聖徳太子が光明寺創建(寺伝)



673年
(白鳳元年)

修験道開祖の役行者が入山し、光明寺を修行道場とする(寺伝)

901-923年
(延喜年中)

聖宝理源大師が真言密教の道場として再興(寺伝)



1248年
(宝治2年)

二王門建立 ⑥



1410年
(応永17年)

光明寺に若狭の上釜屋で作られた鰐口を納める ②

1441年
(嘉吉元年)

細川持之が禁制 ③

1475-1517年
(文明7年-永正14年)

二王門に三禅定巡礼札・三十三所巡礼札を納める ⑦

1478年
(文明10年)

細川政国が禁制 ④

1516年
(永正13年)

二王門修理

1527年
(大永7年)

氷上郡黒井城城主赤井氏の兵火に遭い、二王門を残し伽藍を焼失

1533年
(天文2年)

上羽丹波守が大施主となり光明寺を再建、在地豪族の上林氏らが寄進 ⑤

1579年
(天正7年)

明智光秀、丹波を平定

1601年
(慶長6年)

藤懸永勝が上林六千石の領主となり、以後藤懸氏が光明寺を庇護

1604年
(慶長9年)

梵鐘改鑄



1731年
(享保16年)

二王門修理

1840年
(天保11年)

現在の本堂を建立 ①



1860年
(安政7年)

二王門修理

1904年
(明治37年)

二王門、特別保護建造物指定(旧国宝)

1950-1952年
(昭和25-27年)

二王門解体修理
建築年代が判明

1954年3月
(昭和29年)

二王門、国宝指定



指定書と模林静雲住職
(写真提供:光明寺)

2016年6月
(平成28年)

二王門保存修理事業着手

2018年11月
(平成30年)

二王門保存修理完成披露
鐘撞堂修理、梵鐘新鑄



2019年3月
(平成31年)

二王門保存修理事業完了

昭和の二王門解体修理

昭和の二王門修理作業では、修理を行う職人以外にも多くの人々が修理に関わっています。当時はまだ奥上林村でしたが、地元の人たちの熱意と多大な協力によって二王門修理を完成させました。



昭和の解体修理前の二王門

解体修理が始まる前の二王門は、添え木に支えられて建っている状態でした。当時の住職や地元の人びとの熱意により修理事業が発願されました。

(写真提供: 光明寺)



雪道を上る二王像

工事の期間中、二王像は本堂へ移されました。200kgほどもある像を地元の人びとが雪道を担ぎ上げる様子が作業の大変さを伝えています。

(写真提供: 光明寺)

資材は歩荷で

当時の光明寺に車道はありません。資材は山道を背負いで屋根板4,500枚を麓から歩荷して運び上げました。

(写真提供: 京都府教育委員会)



中学生の勤労奉仕

修理期間中、地元の上林中学校東校舎の生徒達が工事を支援するため、上林川から砂利運搬の勤労奉仕を行っています。

(写真提供: 光明寺)



奉賛会の托鉢

修理のための費用を募るため、地元では奉賛会が組織され、二王像に扮した若人が托鉢などを行いました。総工費475万円、うち地元負担15万円。

(写真提供: 光明寺)

昭和の解体修理完成時の二王門

昭和28年4月27日から三日間落慶法要が営まれ、数千人の人出で賑わいました。

(写真提供: 光明寺)



オールあやべで国宝修理支援

綾部市民の誇りである国宝光明寺二王門の保存修理を支援するため、「国宝光明寺二王門プロジェクト実行委員会」を設立し、オールあやべの体制で保存修理支援に取り組みました。

【実行委員会の取組】

平成28年 6 月 1 日	国宝光明寺二王門プロジェクト実行委員会設立
平成28年10月	募金活動を開始
平成28年11月 5 日	二王門保存修理現場見学会協力(京都府主催)
平成29年 3 月25日	二王門保存修理特別講座を開催(綾部市資料館共催)
平成29年 4 月16日	二王門保存修理現場見学会(第1回)を開催
平成29年10月29日	二王門保存修理現場見学会(第2回)台風の影響により中止
平成29年11月 2 日	二王門保存修理現場見学会協力(京都府主催)
平成30年 3 月18日	二王門保存修理特別講座を開催(綾部市資料館共催)
平成30年 4 月22日	二王門保存修理現場見学会(第3回)を開催
平成30年11月18日	二王門完成見学会協力(奥上林地域振興協議会主催)
平成31年 3 月	修復事業の完了に伴い募金活動を終了。市内をはじめ全国各地からお寄せいただいた募金総額は1,175万円(平成31年3月11日現在)にのぼり、多くのあたたかいご支援をいただきました。

○募金の使いみち

- ・二王門修理費(所有者負担金)
- ・特別講座、二王門見学会、広報活動(PRパンフレット・完成記念冊子作成等)、事務費

○二王門保存修理総事業費

1億4,800万円
(財源内訳: 国補助金1億2,580万円、府補助金250万円、市補助金985万円、所有者負担金985万円)

特別講座



二王門見学会



広報活動

ホームページ公開



クラウドファンディングの活用



国宝光明寺二王門プロジェクトパンフレット作成



PR動画の作成・公開



市内各種イベントでのPR



(写真是由良川花壇展覧会時)

記念グッズの作成



二王像をモチーフにした日本手ぬぐいや、二王門の古材からつくった記念品を作成し、修理事業の啓発を行いました。

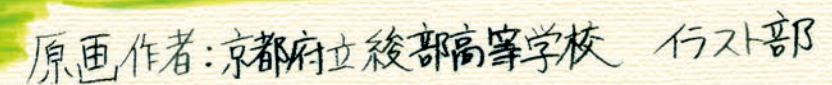


文化財登録
国全
光明寺
二王門
鎌倉時代(14世紀)
火災焼損
HIYACHI

A scenic view of a mountain range at sunrise or sunset. The sun is low on the horizon, casting a warm glow over the landscape. In the foreground, a cartoon boy with brown hair, wearing a white shirt and blue shorts, is pointing towards the horizon. To his right, a cartoon girl with pink hair, wearing a pink shirt, is looking on. The background features rolling mountains and a valley filled with mist or low clouds. The overall atmosphere is peaceful and scenic.

A large, ancient, moss-covered tree trunk in a forest, with a person standing next to it for scale. The tree is covered in thick green moss and has a hollowed-out section in its trunk. The background shows a forest with trees displaying autumn foliage in shades of yellow and orange.

A photograph of a forest floor covered in white flowers, with sunlight streaming through the trees. The scene is serene and natural, with tall trees in the background and a dense carpet of white blossoms in the foreground. Sunlight rays are visible filtering through the canopy.



・トレーニングコース



NIO-MON

Komyo-ji Temple is said to have been founded by Prince Shotoku in 599.

The Nio-mon gate of this temple is designated as a national treasure.

Its two-storey gate was quite rare when it was built in the Kamakura period.

— 平成の大修理完成記念 — 国宝 二王門 京都・綾部市・光明寺

編集・発行 国宝光明寺二王門プロジェクト実行委員会 平成31年3月
(事務局 〒623-0005 京都府綾部市里町久田21-20 綾部市資料館内 TEL 0773-43-1366)